

寧夏河東砂地の人類活動と砂漠化との関係問題に関する新しい探索

何彤慧^{1 2} 王乃昂² 黄銀洲² 馮文勇^{2 3}

1. 寧夏大学資源環境学院

2. 蘭州大学資源と環境学院

3. 忻州師範学院地理学部

キーワード； 寧夏河東砂地 人類活動 砂漠化

主旨；

寧夏河東砂地は、空間上わが国の北方農牧交錯区では、もっとも移行性のある地域的特徴を持つ砂地である。この五十年以来、国家と自治区の生態立て直しの重点地域でもある。長期にわたりこの砂地は、“人工砂漠”の観点から、砂を防ぎ砂を治めることと生態建設の仕事に支配されてきた。最近の研究によると寧夏河東砂地は、明清時代に大規模な開墾活動を行う前にすでに存在していたことが分かっている。明清以来、砂漠化の進行は人類の活動と密接な関わりがあり、湖が縮み干上がることは直接的な対応関係がある。従って、合理的な土地の利用方法、湖を守って地下水の降下を防ぐことは寧夏河東砂地での砂を防ぎ砂を治める有効な対策である。寧夏河東砂地の人類活動と砂漠化との関係を正しく認識しなければならない。当地の砂漠化の発展法則を認識して、人と土地との関係を調和させ、合理的な資源開発及び砂漠化防止事業などのガイドラインを提供することができる。退耕還林還草などの生態建設プロジェクトの有効実施に対しても、それだけの科学意味がある。